

2016年12月16日

発行：島根民医連 医系学生サポートセンター

Tel:0853-21-3360 Email:igakutai@gmail.com

12月奨学生会議

こども発達相談室・小児リハ外来の紹介

12/15(木) @ 出雲市民リハビリテーション病院

12月奨学生会議は出雲市民リハビリテーション病院こども発達相談室の川上課長と女鹿田主任を講師にお招きし、施設の概要などお話をさせていただきました。障害児者リハビリセンターには小児外来リハ、児童発達支援センターわっこ、臨床心理室、相談支援事業所の4つの部門があり、利用する制度が医療と福祉の部分に別れているということも医学生にとっては初めて聞く内容で理解に苦戦していました。制度利用の仕組みについても改めて学習機会が設けられればと思います。

医師の関わりの部分では、リハビリを行うにも、通所支援事業等の福祉サービスを利用するにも、まずは医師の診断が必要だと説明をされました。こども発達外来“はばたき”では、外来看護師による初診時の丁寧な聞き取りと学校等から情報も併せて、医師が30～60分の診察をします。そこでの診断を受け入れられない保護者の方も少なくなく、医師が悪者になることもあるとのことにお話に、学生は医師の責任の重さを感じたようです。

後半のディスカッションでは、川上課長から学生に対し「障がいを持つ方をどう思っている？」と問いかけていただき議論を深めました。川上課長の障がいを持つ人たちへの思いをうかがって、学生も改めて障がいについて考える機会となりました。また、女鹿田主任の「小児って楽しいよ」という言葉から、日々の支援で悩みや辛いことがあっても子どもたちから貰えるパワーも大きい活動だと感じました。

週末に「医学生が“障害”について考える」をテーマに医学生のつどいが開催されます。この学習会に出席した学生2名も参加予定です。今日の学習を踏まえて、全国から集まる学生たちとも活発な議論をしてくれることを期待しています。

【学生の感想】

- ⇒大変なことは沢山あると思うのですが、楽しくリハビリなどをしているとお聞きしてイメージが変わりました。医療と福祉、社会との連携がとても大切と感じました。
- ⇒両親にとって子どもが発達障害や障害があるというのは受け入れ難いことで、診断・告知をする医師は重要な役割を持つ。障害は一つの個性であるという考えを、障害を持つ本人、社会の両者が共有できる社会になってほしいと思うし、そういう世の中づくりに貢献したいと思います。

